

◆◆関東地方整備局の動き◆◆

1. 平成25年度国土交通省関係予算概算要求に係る関東地方整備局所管事業について

平成25年度国土交通省関係予算概算要求に係る関東地方整備局所管事業について、お知らせします。

詳しくは、関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kyoku_00000545.html

2. 「平成23年度首都圏広域地方計画の推進状況について」及び東日本だい震災を踏まえた「首都圏広域地方計画の総点検結果について（中間とりまとめ）」

首都圏広域地方計画(平成21年8月策定)は、首都圏広域地方計画協議会において、本計画の実効性を高め、着実な推進を図るため、毎年度、各プロジェクトの進捗状況を把握することとしており、今回、平成23年度の首都圏広域地方計画の推進状況をとりまとめました。なお、平成23年度は計画策定後3年が経過したことから、戦略目標の達成状況について評価を行いました。

また、東日本大震災を踏まえた首都圏広域地方計画の総点検を行うため「東日本大震災を踏まえた首都圏における広域的な連携・取組みのためのプロジェクトチーム」を設置し、首都直下地震等に備えた大規模地震対策を推進する上で、広域的に連携する必要性の高い課題、それに対する今後の取組みの方向性等について、東日本大震災を踏まえた検討・整理し、中間とりまとめを行いましたのでお知らせします。

○公表資料及び公表先

(1)「平成23年度 首都圏広域地方計画の推進状況について」及び概要版

(<http://www.ktr.mlit.go.jp/chiiki/kokudo00000050.html>)

(2)「首都圏広域地方計画の総点検結果について(中間とりまとめ)」及び概要版

(<http://www.ktr.mlit.go.jp/chiiki/index00000030.html>)

詳しくは、関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/river_00000053.html

3. 利根川水系の取水制限を一時的に緩和します。

9月10日の第1回利根川水系渇水対策連絡協議会(会長：国土交通省関東地方整備局長)では、9月11日(火)9時より10パーセントの取水制限を実施していますが、9月22日(土)～23日(日)にかけて、流域全体で降雨があり、数日間一時的に河川流況が好転すると見込まれるため、9月24日17時より一時的に取水制限を緩和しますのでお知らせします。

なお、ダム貯水率は抜本的に改善している状況にはないため、引き続き日常生活においても「風呂水の有効利用」「水の流し放しはしない」等、限りある水資源の有効活用のため、節水にご協力をお願いいたします。

詳しくは、関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/river_00000053.html

○渇水情報 http://www.ktr.mlit.go.jp/saigai/kyoku_dis00000063.html

4. 第5回技術講演会・出展技術発表会を開催します。

建設技術者の方々を主な対象に、建設技術や建設技術の開発・活用の取り組みについて情報を提供し、公共工事に係る技術者の知識習得及び技術の普及を図ることを目的として、「第5回技術講演会・出展技術発表会」を開催します。

日時：平成24年10月3日(水)、4日(木) 13時00分～16時15分頃(受付12時30分～)

場所：国土交通省 関東地方整備局 関東技術事務所構内 建設技術展示館会議室
千葉県松戸市五香西6-12-1

内容：技術講演会

【1日目】 「工事の監督と検査について」

講演者：関東地方整備局 企画部 技術管理課
課長補佐 岩村浩一

【2日目】 「コンクリート橋の維持管理について」

講演者：(独)土木研究所 構造物メンテナンス研究センター
橋梁構造研究グループ 上席研究員 木村嘉富氏

出展技術発表会

テーマ：共同溝・カルバート関連、トンネル・アンダーパス関連

発表者：10者(13技術)

※詳細は、本文資料(PDF)別添参照

参加費：無料

※本技術講演会・出展技術発表会は、土木学会のCPDプログラム、全国土木施工管理技士会連合会のCPDSの認定を受ける予定です。

詳しくは、関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kikaku_00000061.html

5. 深層崩壊に関する調査結果の公表について

関東地方整備局において実施している深層崩壊に関する調査について、調査のとりまとまった結果を公表します。

関東地方整備局においては、平成22年8月に国土交通本省において公表された「深層崩壊推定頻度マップ」における深層崩壊の発生頻度が「特に高い」と推定される地域を中心に、深層崩壊の発生の恐れのある溪流レベルの調査を実施しています。

今回、国土交通本省において全国の調査状況等について公表されたところですが、関東地方整備局において調査のとりまとまった「深層崩壊溪流レベル評価マップ」を下記ホームページアドレスに掲載しましたのでお知らせします。

詳しくは、関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/river_00000048.html

◆◆国土交通本省の動き◆◆

1. 平成23年水害被害額の暫定値（全国・都道府県別）について

平成23年の水害被害額の暫定値（東日本大震災に伴う津波による被害を除く^{※1}）について取りまとめましたので、その結果を公表します。

※1 東日本大震災に伴う津波被害額については別途集計中であり、津波被害額を含めた最終的な取りまとめ結果の公表は、平成24年度末頃になる予定。

詳しくは国土交通省ホームページでご覧いただけます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo03_hh_000553.html

2. 平成24年防災功労者内閣総理大臣表彰について

標記について、東日本大震災における防災活動や豪雨災害等に対する水防活動に著しい功績があったとして、別紙記載の29団体が表彰されることとなりましたのでお知らせいたします。

詳しくは、国土交通省ホームページでご覧いただけます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo03_hh_000087.html

3. 平成24年7月の九州の豪雨災害等を踏まえた堤防の緊急点検結果

平成24年7月の九州の豪雨災害を踏まえ、全国109水系の直轄河川管理区間における堤防の緊急点検結果がとりまとめられましたので、お知らせします。

また、あわせて、実践的な洪水ハザードマップへのグレードアップの方向性についても、お知らせします。

詳しくは国土交通省ホームページでご覧いただけます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo03_hh_000551.html

関東地方整備局8水系の直轄河川管理区間における堤防の緊急点検結果

http://www.ktr.mlit.go.jp/river/bousai/river_bousai00000102.html

4. 国際シンポジウム「これからの河川環境を考える－自然環境の保全・再生の価値－」の開催について

国土交通省では、国民を水害から守る治水事業等の取組みを進めるとともに、河川環境の改善の取組みも進めているところです。特に近年では、流域自治体や住民と連携しながら、河川における自然環境や生物多様性の保全・再生に積極的に取り組んでいるところです。

こうした生物多様性に関する取組みは国際的な関心も高く、特にその経済的な価値が見直されているところであり、開発が進んだ日本の河川における取組事例は世界的にも注目されています。

今回、世界的な生物多様性の取組みを進める世界銀行に協力をいただき、国内外の有識者らによる議論を通して、日本の河川における自然環境の保全・再生の価値とこれからの方向性について考える国際シンポジウムを開催しますのでお知らせします。

- | | | |
|---|------|------------------------------------|
| 1 | 日 時 | 平成24年10月11日（木）13：00～17：00 |
| 2 | 会 場 | 東京商工会議所ビル7階 国際会議場（東京都千代田区丸の内3-2-2） |
| 3 | 主 催 | 国土交通省 |
| 4 | 協 賛 | 世界銀行 |
| 5 | 定 員 | 200名程度 うち、一般参加100名程度（事前申込み制、先着順） |
| 6 | 参加費 | 無料 |
| 7 | 使用言語 | 日本語・英語（全プログラムに日英の同時通訳がつきます） |
| 8 | 申込方法 | 電子メール又はFAXで、必要事項を開催事務局に送付。 |

詳しくは、国土交通省ホームページでご覧いただけます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo03_hh_000550.html

5. 平成24年度「都市緑化月間」（10月1日～10月31日）が始まります。

主要な行事として、

- ・ 国営公園での各種催事及び無料開放
- ・ 都市緑化キャンペーン

10月1日（月）会場：日比谷公園 小音楽堂前

- ・ 「ひろげよう 育てよう みどりの都市」全国大会

10月26日（金）会場：日比谷公会堂 を行いますのでお知らせします。

1. 運動の重点

全国統一テーマ『ひろげよう 育てよう みどりの都市』

国及び地方公共団体は、『ひろげよう 育てよう みどりの都市』の全国統一テーマの下に、関係諸団体の参加と協力を得て、都市緑化推進のための諸活動を行い、地域住民の緑化意識の高揚を図り、もって都市の緑化及び都市公園等の整備の推進を図ります。

2. 期 間

平成24年10月1日（月）から平成24年10月31日（水）まで

3. 主 催

国土交通省、都道府県、市町村

詳しくは、国土交通省ホームページでご覧いただけます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/toshi10_hh_000111.html

◆◆地域の動き◆◆

浅川の治水対策について

長野県 長野建設事務所 浅川改良事務所

□はじめに

信濃川水系の浅川は、長野市北部の飯縄山に源を発し、長野市の北部山地を東流した後、住宅地を流下し、支川を合流しながら、千曲川（新潟県では信濃川と呼ばれています。）に合流する流域面積約73km²、流路延長約17kmの一級河川です。

浅川は、急流なうえ天井川であったこと等から、古くから水害が頻発していました。近年では、流域の宅地化が急速に進んだことにより想定氾濫区域内の資産が増大し、治水対策が急務となっています。



浅川ダム計画概要図



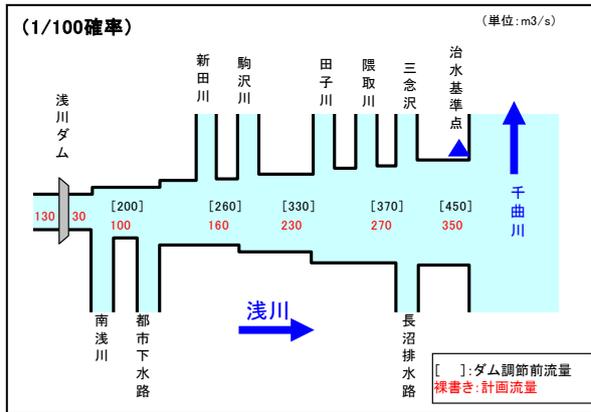
長野市街地を流れる浅川

□経緯

昭和52年に実施計画調査に着手した当初のダムは、洪水調節、長野市の水道用水、流水の正常な機能の維持を目的とした多目的ダムでした。この多目的ダムは、昭和60年に建設採択されました。

平成13年2月の「脱ダム宣言」を受け、学識経験者や流域住民らの参加のもと、森林整備、遊水地、ため池活用、水田活用など様々な流域対策を考慮した「ダムによらない治水対策」について検討を行いました。しかし、遊水地・水田活用などの流域対策や改修済み河川の再改修について流域住民の理解が得られず、その後、河道内遊水地や地下放水路等による対策案や整備目標を暫定計画にする等の案も検討しました。

このような経過を経て、ダムという選択肢も含め、環境への影響、経済性、効率性を考慮する中で幅広く検討した結果、最終的に「治水専用ダム」と「河川改修」を組み合わせた対策を進めることが最も望ましいという判断に至り、平成19年8月に河川整備計画の認可を受け、浅川ダムの建設に着手しました。



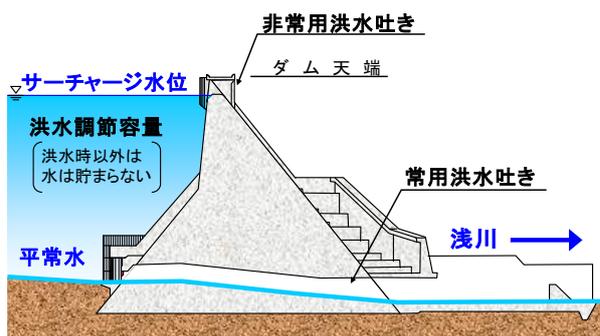
流量配分図



浅川ダム完成イメージ

□治水ダム建設事業

浅川ダムは、洪水調節を目的とする堤高 53m、堤頂長 165m、堤体積 14.1 万 m^3 、総貯水容量 110 万 m^3 の重力式コンクリートダムです。常時は水を貯めない流水型「いわゆる穴あきダム」とすることで、土砂の流下を妨げず、また、常用洪水吐きには魚が遡上しやすいよう魚道を設置するなど、環境に与える影響に配慮したダム構造となっています。



浅川ダム標準断面図



下流よりダムを望む (H24. 9. 4 現在)

ダム本体工事は、平成22年3月に本契約となり、平成23年9月からダム本体コンクリートの打設を開始しております。平成24年9月19日には、国土交通省、地元関係者、工事関係者など152名の出席のもと「浅川ダム定礎式」を開催しました。これから工事は最盛期を迎えますが、引き続き、安全、品質確保に努めながら、平成28年度末の完成を目指していきます。

また、貯水池周辺には、湛水により影響を受ける5つの地すべりブロックが存在することから、押え盛土工 (CSG)、抑止杭工、頭部排土工などの対策工を実施しています。



定礎式会場 (上流より望む)



埋納の儀（コンクリートの投入）



くす玉開披

□河川改修事業

昭和52年から、ダムによる洪水調節を前提とした河川改修を実施しています。特に、中流域は天井川であり、JR 信越線との交差部では電車の上を浅川が横過するまれな形態をしていたため、河床を低下させ浅川の上を電車が横過する通常の形態にするなどの工事を平成17年度までに実施しました。

現在は、残っている上流部の河川改修と下流部の河床掘削を実施しており、浅川ダム完成までに完了する予定です。

改修前



改修後



□おわりに

浅川ダム建設にあたり、貴重な土地を提供していただいた地権者の皆様ならびに地元関係者の皆様、また、国土交通省、（独）土木研究所、（財）ダム技術センター、その他の関係機関の皆様に、心より厚く御礼申し上げます。